

2015年11月10日 全8頁

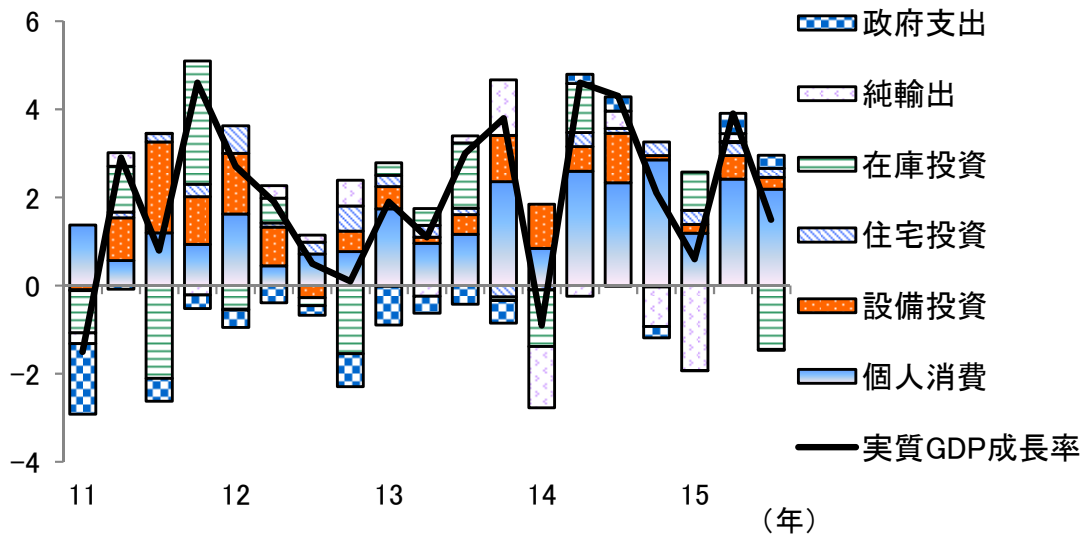
アメリカ経済グラフポケット (2015年11月号)

2015年11月9日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



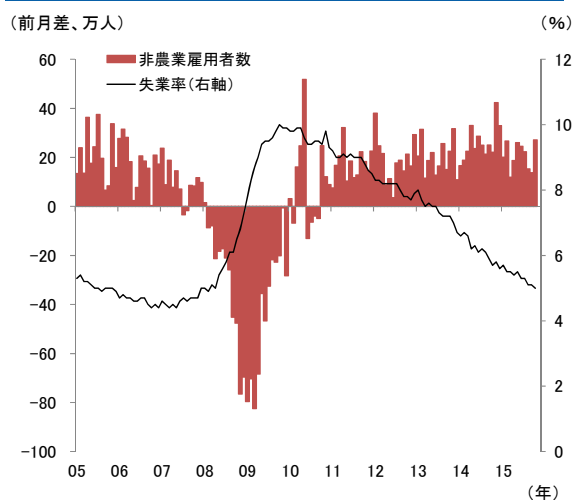
(前期比年率、%、%pt)	2013	2014				2015		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	3.8	-0.9	4.6	4.3	2.1	0.6	3.9	1.5
個人消費	3.5	1.3	3.8	3.5	4.3	1.8	3.6	3.2
設備投資	8.7	8.3	4.4	9.0	0.7	1.6	4.1	2.1
住宅投資	-8.1	-2.8	10.4	3.4	10.0	10.1	9.3	6.1
政府支出	-2.7	0.0	1.2	1.8	-1.4	-0.1	2.6	1.7
輸出	10.9	-6.7	9.8	1.8	5.4	-6.0	5.1	1.9
輸入	1.0	2.8	9.6	-0.8	10.3	7.1	3.0	1.8
寄与度								
個人消費	2.4	0.9	2.6	2.3	2.9	1.2	2.4	2.2
設備投資	1.1	1.0	0.6	1.1	0.1	0.2	0.5	0.3
住宅投資	-0.3	-0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2
在庫投資	-0.1	-1.3	1.1	0.0	0.0	0.9	0.0	-1.4
政府支出	-0.5	0.0	0.2	0.3	-0.3	0.0	0.5	0.3
輸出	1.4	-1.0	1.3	0.2	0.7	-0.8	0.6	0.2
輸入	-0.2	-0.4	-1.5	0.2	-1.6	-1.1	-0.5	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

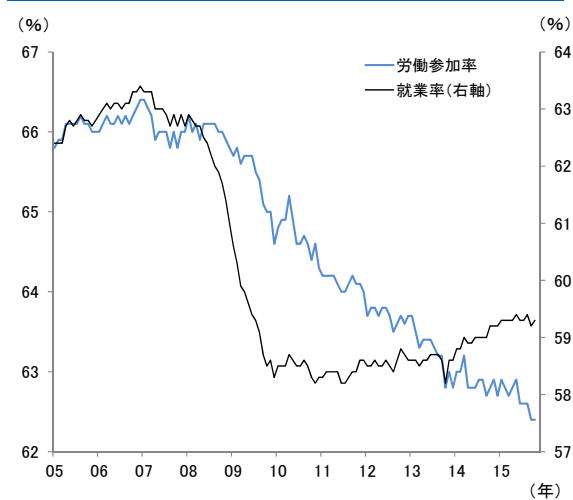
- ◆ 10月の失業率は5.0%となり、前月から0.1%ポイント低下した。就業者数の大幅な増加が失業率を押し下げた。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は27.1万人増となり、前月から増加幅が大きく拡大した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は21.5万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



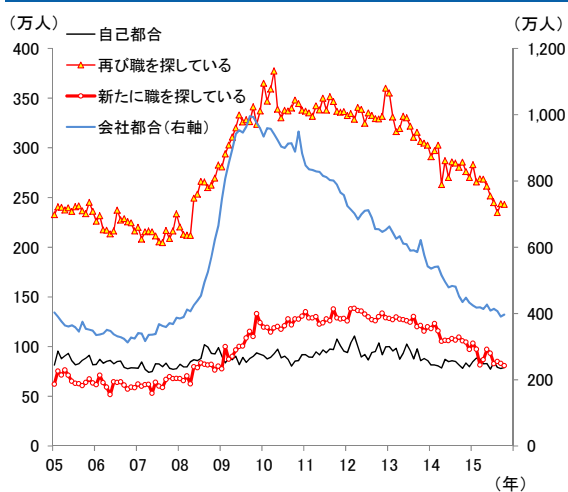
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



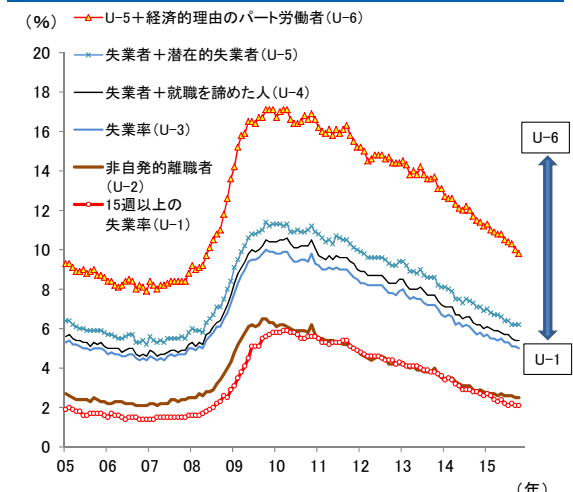
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



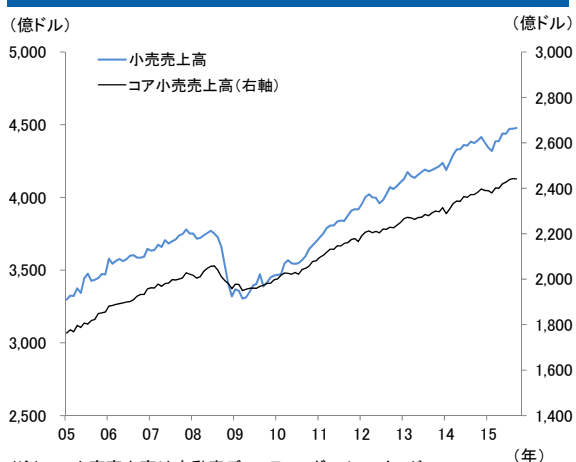
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「12月の利上げ開始に向け一歩前進」(2015年11月9日)参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20151109_010298.html

個人消費

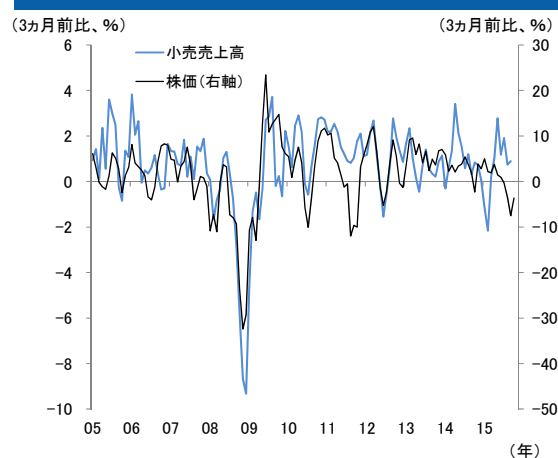
- ◆ 9月の小売売上高は前月比0.1%増加した。コア小売売上高は同0.1%減少し、5ヵ月ぶりの減少となった。
- ◆ 10月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の87.2から90.0に上昇した。現況指数、期待指数の双方が改善し、4ヵ月ぶりの上昇に転じた。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比0.4%増加し、年率換算で1,824万台であった。低金利やガソリン安が寄与し、4ヵ月連続で増加した。

小売売上高の推移



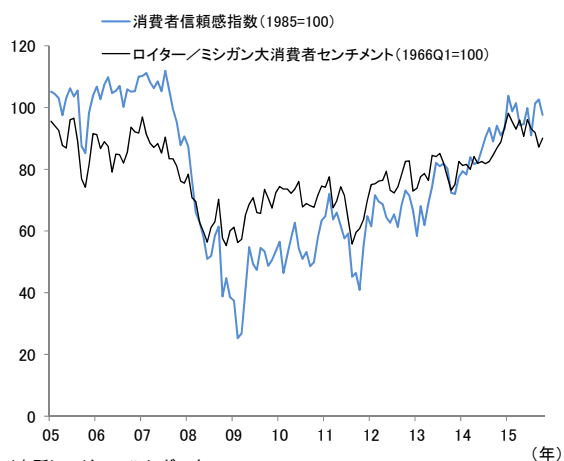
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、
建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所)Census,Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



(注)株価はWilshire5000。
(出所)Census,Dow Jones,Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大,Conference Board,Haver
Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所)Autodata,Haver Analyticsより大和総研作成

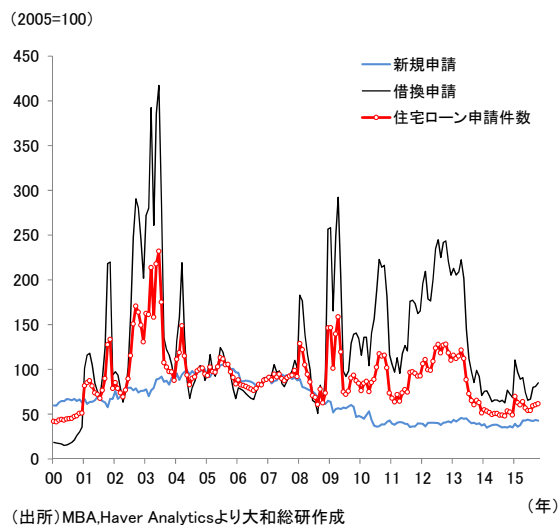
住宅市場

- ◆ 9月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比6.5%増の年率換算120.6万戸であった。集合住宅の大幅な増加を主因に3ヵ月ぶりの増加となった。
- ◆ 9月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比5.3%増と2ヵ月ぶりの増加に転じ、年率換算493.0万戸となった。
- ◆ 9月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比11.5%減と大幅に減少し、年率換算46.8万戸であった。
- ◆ 8月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比0.1%上昇した。

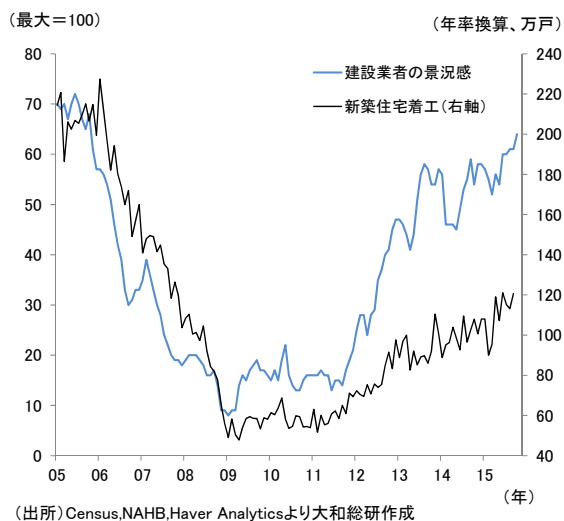
住宅販売（一戸建て）



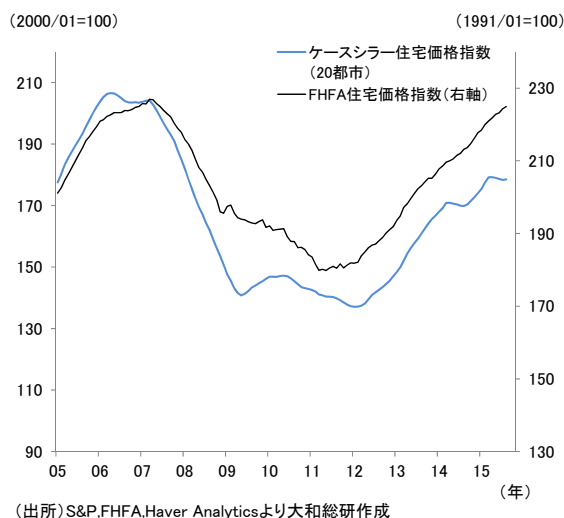
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



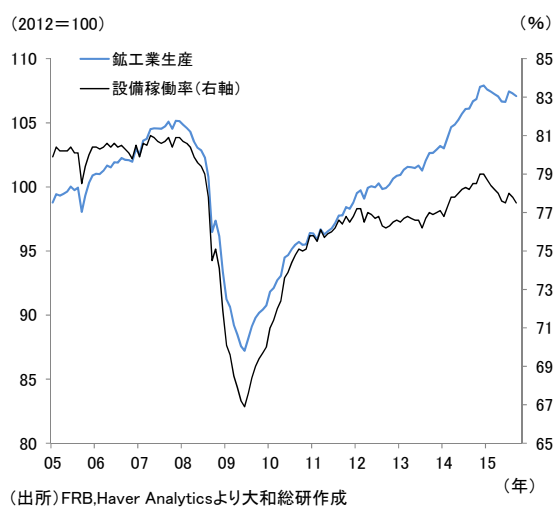
住宅価格



企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月比0.2%低下し、2ヵ月連続の低下となった。指数全体の約7割を占める製造業も同0.1%低下した。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は前月比0.1%減で、2ヵ月連続で減少した。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、前月差0.1%ポイント低下の50.1%であった。4ヵ月連続で低下し、2013年5月以来の低水準となった。一方、非製造業指数は、前月から2.2%ポイント上昇し、59.1%であった。両指標ともに拡大・縮小の分岐点である50%を上回る水準を維持しているが、製造業指数の低下傾向が著しい。

鉱工業生産と設備稼働率



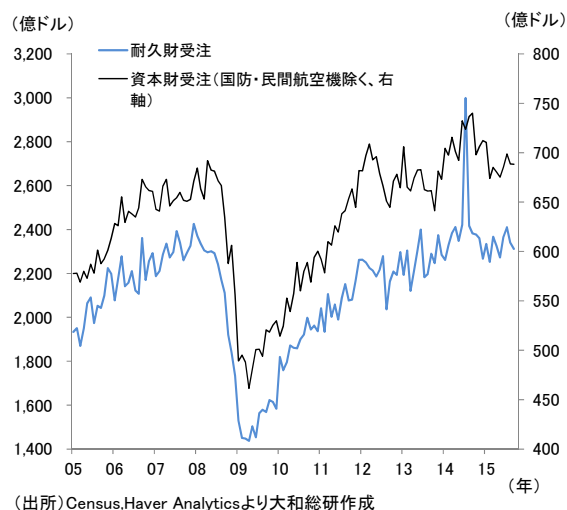
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



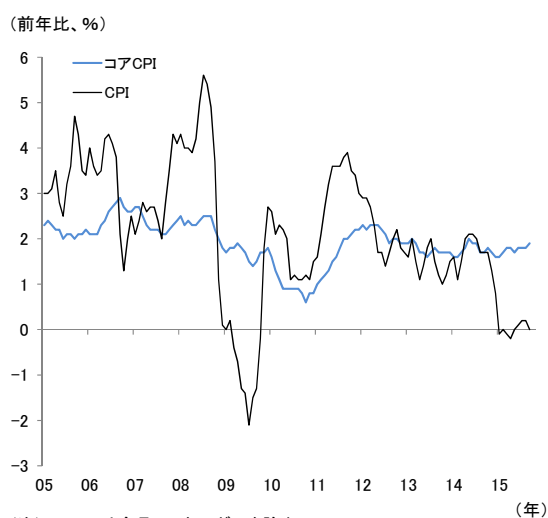
耐久財受注



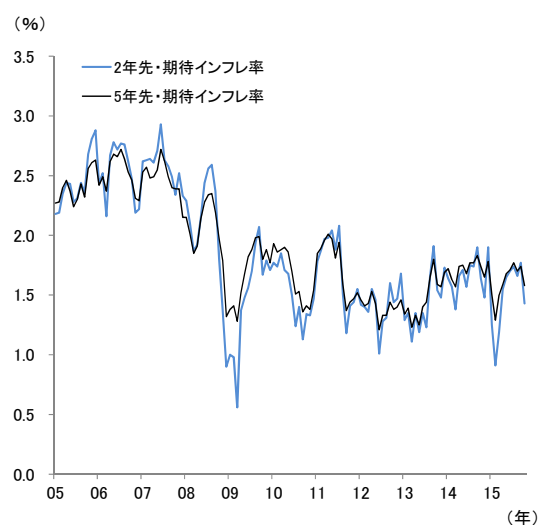
物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年と同水準であった。コアCPIは同1.9%上昇し、前月から上昇幅がわずかに拡大した。
- ◆ 10月の2年先期待インフレ率は1.43%、5年先期待インフレ率は1.58%であり、いずれも前月から低下した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は46.59ドル/バレルと、9月末の45.09ドル/バレルから小幅に上昇した。

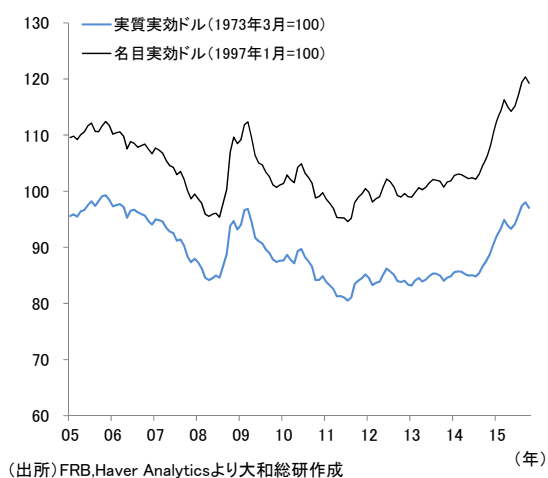
消費者物価指数



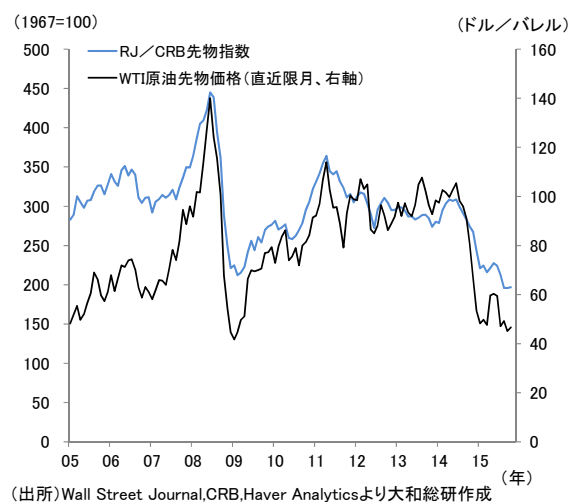
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



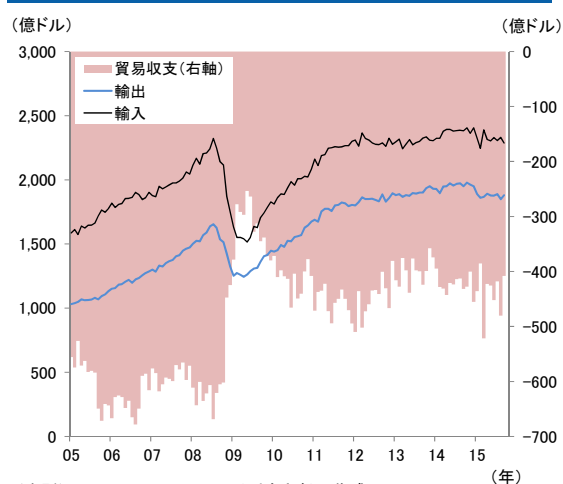
コモディティ価格



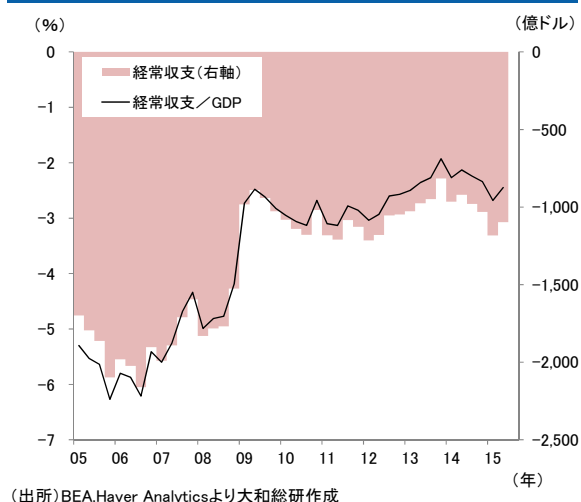
輸出入・経常収支

- ◆ 9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.6%増加し、輸入は同1.8%減少した。輸出は、宝飾品や携帯電話などの消費財、および資本財が増加した。一方の輸入は、原油や資本財の減少が押し下げ要因となった。貿易収支は前月から15.0%縮小し、約408億ドルとなった。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比1.2%増加し、欧州向けも同2.3%増加したが、日本向けは同13.9%減少した。輸入は、中国からの輸入が同1.7%増、欧州からの輸入も同0.2%増加したが、日本からの輸入は同8.5%減少した。

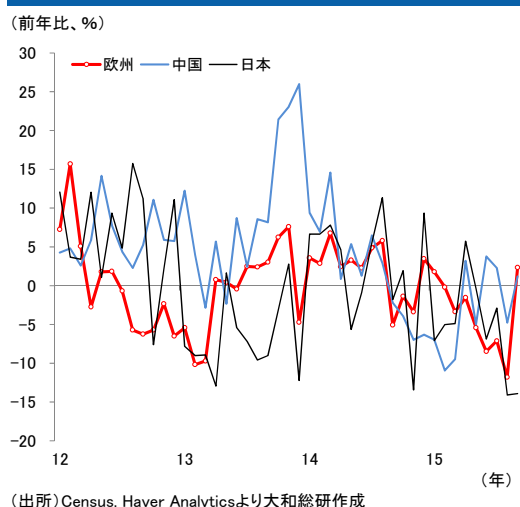
貿易収支動向



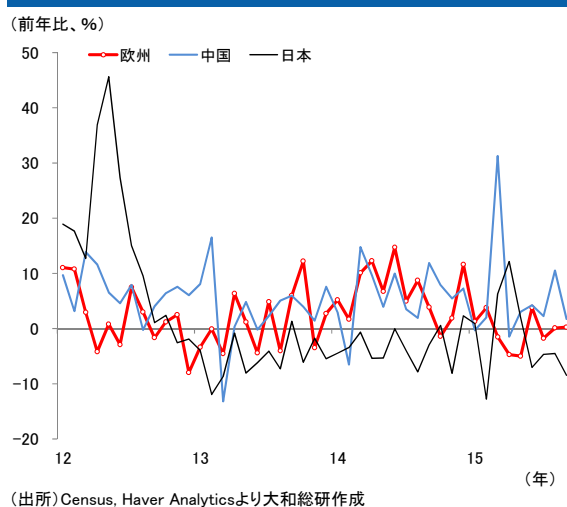
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



国・地域別輸入動向



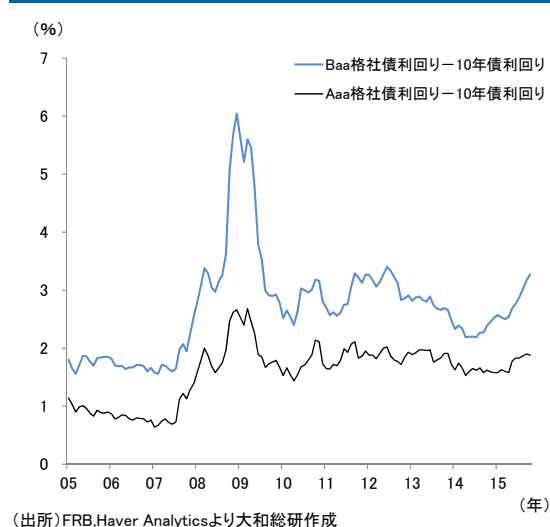
金融・財政

- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.07%と、前月から低下した。軟調な経済指標を受けて、景気減速に対する懸念が高まったことから、一時2%を下回る水準まで低下した。
- ◆ 10月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、事実上のゼロ金利政策の据え置きと、保有する資産規模の維持が決定された。FRBの資産残高は、直近の11月4日の週平均が約4兆5,400億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

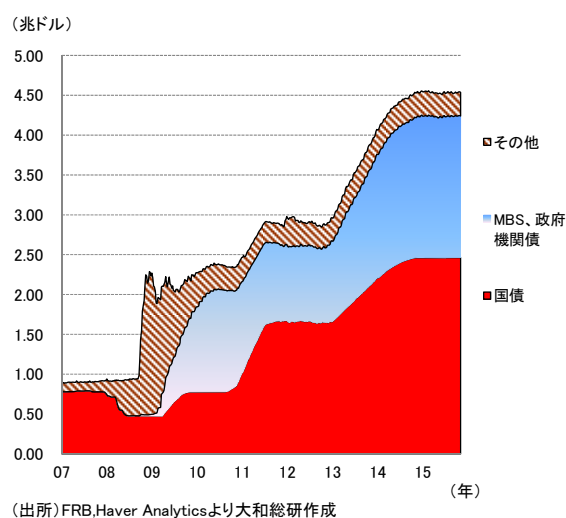
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

